



## 平成17年度 社団法人日本グライダークラブの記録



クラブホームページ [www.glider.jp](http://www.glider.jp)

### 社団法人日本グライダークラブ定款より

#### (目 的)

第 3 条 本クラブは、グライダー（モーターグライダー並びにグライダー曳航用軽飛行機を含む。以下同じ）の操縦訓練・研究・制作等を通じ、航空知識の普及と航空関係技術の向上をはかり、また、広く各国グライダー界と交流し、もってわが国グライダー界の発展に資することを目的とする。

#### (事 業)

第 4 条 本クラブは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの操縦練習並びにその指導。
- (2) グライダーの普及並びに技術の向上をはかるための記録会・競技会・講習会等の開催。
- (3) グライダーの操縦技術・安全運行・事故防止対策等に関する研究会・講演会・映画会等の開催。
- (4) グライダーの設計・改造・制作・整備・修理。
- (5) グライダーに関する出版物などによる航空思想の普及。
- (6) その他、本クラブの目的達成に必要な事業。

## *Club Operation in 2005*

# 平成17年度 社団法人日本グライダークラブ事業報告書

平成18年1月31日  
(社)日本グライダークラブ  
理事長 吉田 正

社団法人日本グライダークラブは、国土交通省所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき、平成17年度は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。平成18年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## 1. 公益事業

### 1) 滑空機研修会事業

	<b>ベーシックコース(自家用受験準備コース)</b> 期 間 : 平成17年6月17・18・23・24・30・31日 (6日間) 参加人数 : インストラクター3名、練習生6名 概 要 : 受験準備の目的で、6日間の学科及び飛行に関して集中トレーニングを行った。
	<b>指定養成コース</b> 期 間 : 平成17年11月11~13・19・20・23・26・27(8日間) 参加人数 : 指定養成施設入所者3名 概 要 : 2年ぶりに指定養成施設が開催され、入所者3名全員が最終審査に合格した。

### 2) 滑空機安全講習会の開催

	<b>AFRコース(Annual Flight Review)</b> 期 間 : 平成17年通年 参加人数 : 板倉滑空場の定期的利用者全員 概 要 : 板倉滑空場にて飛行を行うパイロットに向けて AFR(Annual Flight Review)を滑空機及び動力滑空機ともに実施した。
	<b>アドバンスドコース(First Aid 講習会・消火訓練)</b> 期 間 : 平成17年6月25日 参加人数 : インストラクター及び会員17名 概 要 : 消防署より派遣された講師による普通救命講習及び AED の取り扱い、並びに新しく設置された消火設備の取扱方法を含めて消火訓練を行った。
	<b>アドバンスドコース(ウェーブフライト講習会)</b> 期 間 : 平成17年6月26日 参加人数 : インストラクター及び会員16名 概 要 : ウェーブの発生原理、発生場所、空域、高々度飛行に必要な知識の習得、及び酸素の使用方法などの講習を行った。

	<p><b>EMFT コース(エアロバティクス体験会)</b>          期 間 : 平成17年4月2日 (1日間)          参加人数 : 受講者4名          概 要 : (社)日本滑空協会曲技飛行委員会の後援により、普段体験できない高度なエアロバティクスの体験会を実施した。</p>
	<p><b>EMFT コース(ベーシックアクロ講習会)</b>          期 間 : 平成17年6月18日 (1日間)          参加人数 : 受講者5名          概 要 : (社)日本滑空協会曲技飛行委員会の後援により、基本的なエアロバティクスの講習会を実施した。</p>
	<p><b>整備コース(ベーシック)</b>          期 間 : 平成17年6月11・12・18・19日(4日間)          参加人数 : インストラクター2名、受講者8名          概 要 : 二等航空(運航)整備士(上滑)受験に向けて学科、実技の講習を実施した。二等航空運航整備士(上滑)6名、二等航空整備士(上滑)2名の計8名が受講した。</p>
	<p><b>整備コース(FRP 修理・エアーツール講習会)</b>          期 間 : 平成17年7月2・3・9・10日(4日間)          参加人数 : インストラクター1名、受講者5名          概 要 : FRP修理講習(FRPの基礎からゲルコート仕上げまで)、及びそれに先だってエアーツール取扱い講習を行った。</p>
	<p><b>整備コース(ブラッシュアップ)</b>          期 間 : 平成17年11月12・13・19・20日(4日間)          参加人数 : インストラクター2名、受講者6名          概 要 : 二等航空(運航)整備士(上滑)受験に向けて学科、実技の講習を実施した。二等航空運航整備士(上滑)4名、二等航空整備士(上滑)2名の計6名が受講した。</p>
	<p><b>グライダー・チャレンジ・アンデス2004シンポジウム開催</b>          期 間 : 平成17年2月11日          開催場所 : 万世秋葉原本店          主 催 : (社)日本グライダークラブ・(社)日本女性航空協会          後 援 : (社)宮城県航空協会          参加人数 : 受講者130名          概 要 : クラウス・オールマンによる3000kmウェーブフライト、ジャパンチームのアルゼンチン遠征報告、日本の山岳波飛行の実情などに関する講演が行われた。</p>

### 3) 共催及び後援事業

	<p><b>技量維持航空安全講習会(航空局通達対応)</b>          期 間 : 平成17年2月26日          主 催 : (社)日本航空機操縦士協会          参加人数 : 30名          概 要 : 航空局通達に対応した自家用操縦士の技量維持にかかる安全講習会を、総会の行われる前に「(社)日本グライダークラブ会員向けに実施した。</p>
---	--

	<p><b>クロスカントリー・クリニック</b></p> <p>期 間：平成17年3月25、26、27日(3日間)      開催場所：板倉滑空場      主 催：(社)日本滑空協会      参加人数：受講者15名      概 要：滑空機の野外飛行に必要な知識の整理およびフライトスキルの向上を目的とし、座学に加え、経験豊富なインストラクターの同乗による飛行実習が行われた。</p>
	<p><b>エアロパティックジャパン IN かくだ(グライダー曲技競技会)</b></p> <p>期 間：平成17年10月9日、10日、11日(3日間)      開催場所：角田滑空場(宮城県角田市阿武隈川河川敷)      主 催：スカイネット角田、(社)宮城県航空協会      後 援：(財)日本航空協会、(社)日本航空機操縦士協会、(社)日本女性航空協会、(社)日本グライダークラブ 他      出場者数：4名      概 要：グライダー曲技競技会の開催に際し後援を行った。      競技結果：(社)宮城県航空協会・川合真和氏が優勝した。</p>

#### 4) 地域交流および認知度の向上

 	<p><b>渡良瀬バルーンレース 2005</b></p> <p>期 間：平成17年4月9日、10日      開催場所：渡良瀬遊水池運動場      開 催 者：渡良瀬バルーンレース組織委員会      公 認：日本気球連盟、熱気球グランプリ運営機構      後 援：国土交通省利根川上流工事事務所、(財)日本航空協会、栃木県、栃木県藤岡町、藤岡町教育委員会、埼玉県北川辺町、群馬県板倉町、藤岡町商工会、藤岡町観光協会、藤岡町体育協会、藤岡町女性団体連絡協議会、JA 藤岡中央、(財)渡良瀬遊水池地アクリメーション振興財団、栃木県観光協会、下野新聞社      動員人数：約 34,000 人(主催者発表)      概 要：地元にて定着しつつある町おこしイベントに、同じ航空スポーツとして参加。航空知識の普及とグライダーへの理解を目的に地上及び飛行機体展示(デモナ・DG400、Ventus 2)を行い、来場者にグライダーを紹介した。</p>
	<p><b>渡良瀬遊水池 E ボートレース</b></p> <p>期 間：平成17年8月6日      開催場所：渡良瀬遊水池地谷中湖      開 催 者：板倉町・藤岡町・北川辺町主催      概 要：「E ボートレース」が開催され、JSC も「日本グライダークラブ」の登録名で参戦し、地域住民と友好を図った。</p>
	<p><b>ワタラセスカイスポーツ教室2005</b></p> <p>期 間：平成17年10月23日      開催場所：板倉町大荷場コスモス祭り会場      開 催 者：渡良瀬スカイスポーツ協議会主催      概 要：板倉町町制50周年記念協賛事業として開催された、小中学生を対象としたスカイスポーツ教室に協力した。</p>

	<p><b>陸上自衛隊宇都宮駐屯地・記念行事</b>          期 間：平成17年5月22日          開催場所：陸上自衛隊宇都宮駐屯地          開 催 者：陸上自衛隊主催          概 要：宇都宮駐屯地へのフライインにディモナが参加した。</p>
	<p><b>「渡良瀬川クリーン運動」への参加</b>          期 間：平成17年5月1日          開催場所：板倉滑空場周辺の河川敷及び土手          開 催 者：板倉町主催          概 要：クラブ員および協力者によりゴミ集めを実施した。</p>

## 5) 他団体交流事業

	<p><b>日本各地のグライダー関係団体と活発な交流</b>          交流団体：(財)日本学生航空連盟、(社)宮城県航空協会          (社)長野県滑空協会(長野支部・諏訪支部)、          (学)日本航空学園、NPO 法人関宿滑空場、          NPO 法人羽生ソアリングクラブ、読売学生航空連盟、          (社)日本女性航空協会、日本モーターグライダークラブ、          滝川市スポーツ航空協会 他          概 要：日本各地の団体と交流を深め、運航業務支援、知識・技術          の共有、人材交流、79条申請の相互協定、講習会・イベ          ントの相互案内を促進する体制を確立した。</p>
---	---

## 6) 他団体合宿・体験搭乗受入

	<p><b>板倉滑空場で合宿・体験搭乗会を行った諸団体</b>          ① 慶應義塾大学航空部・OB会 (平成17年4月29日～5月1日)          ② 東京工業大学航空部・OB会 (平成17年8月6日～8月7日)          ③ 慶應義塾大学航空部・OB会 (平成17年10月8日～10月10日)          ④ 慶應義塾大学航空部・OB会 (平成17年11月5日～11月6日)          概要：上記団体について、運航支援および体験搭乗を行い、航空ス          ーツの発展と普及に努めた。また一般では、通年で8名の体験搭乗          申し込みがあった。</p>
---	--

## 7) 操縦教育

	<p><b>滑空機、動力滑空機練習生に対する操縦教育実施</b>          土、日、祝祭日を中心に熱心な練習生が集まり、滑          空機及び動力滑空機のライセンスの取得を目指して          操縦教育を行った。</p>
---	---

## 2. 講習会以外の安全事業

- 1) 北関東航空連絡会(陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地)への参加・板倉滑空場の現況＋発表。
- 2) 西関東航空連絡会(航空自衛隊・入間基地)への参加・板倉滑空場の現況＋発表。
- 3) FAI 医事委員会への協力。(FAI-CIMP 委員の会員による協力)
- 4) 館林消防署の消防検査に合格し、3月15日より飛行機格納庫として認定された。

## 3. 会員活動

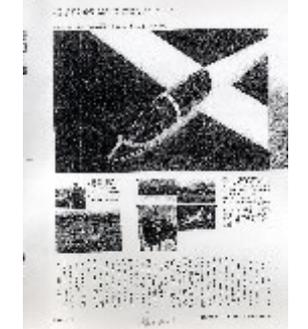
- 1) 年間総曳航回数1427回(HUSKY1406回、DIMONA21回)、DIMONA 自力発航回数110回、SL 機自  
 力発航回数86回、日本でも有数規模のクラブ運営を実施。

2) 正会員72名、準会員32名、賛助会員31名の規模。(平成17年12月31日現在)

	<p><b>航空スポーツ賞の受賞</b>          平成17年9月20日「空の日」に、(財)日本航空協会よりJSCマウンテンウェーブプロジェクトチームに「航空スポーツ賞」が授与された。</p>
	<p><b>マウンテンウェーブ・プロジェクト</b>          平成16年度に、国内外の山岳波飛行に関する研究プロジェクトチームを発足した。          平成17年4月に会員の市川氏、田上氏が、それぞれ奥羽山脈の山岳波飛行を実施。          平成16年12月ー平成17年1月に、会員の森中祐治・玲子夫妻が前述のクラウド・オールマン氏と共に、アンデス山脈(アルゼンチン)の山岳波飛行を実施する「チャレンジ・アンデス2004」プロジェクトを実施。現地での飛行の様子はテレビ朝日「報道ステーション」にて全国ネットで放映された。</p>
	<p><b>日本滑空選手権への参加</b>          平成17年4月、関宿滑空場で開かれた第20回日本滑空選手権大会に会員の秋山氏、森中祐治氏が参加した。</p>
	<p><b>リモデリング事業</b>          55周年記念事業である滑空場施設の改善がほぼ終わり、サロン、キッチン、バスルームなどが全面改装された。          また、事務所との連絡通路にウッドデッキと屋根を設置して多目的広場とした。</p>
	<p><b>会員による日本記録及び世界記録の更新</b>          会員の森中祐治・玲子夫妻がアルゼンチン・アンデス山脈において、2種目で女子世界記録を樹立したほか、複数の日本記録を更新した。</p>

#### 4. 広報活動

グライダーの普及と発展に寄与すべく、グライダーに関する広報活動を積極的に行い、認知度および理解度の向上に努めた。クラブ内においても情報の共有化を推進した。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>グライダーに関する様々な情報(安全情報を含む)と公益事業などクラブの主な活動内容を掲載したホームページ <a href="http://www.glider.jp">www.glider.jp</a> を制作・公開。</li> <li>会員専用のインターネットサイトを利用し、安全情報、事務手続きに関する資料などの共有化システムを構築。</li> <li>各種マスメディアの様々な取材に協力。結果として、新聞、雑誌、TV、ラジオで多数紹介された。</li> </ul>
---	---

## 5. 安全体制の確立

クラブ運航の安全体制を確認するために、全員参加による安全総点検を行い、下記項目の定着を再度促進した。

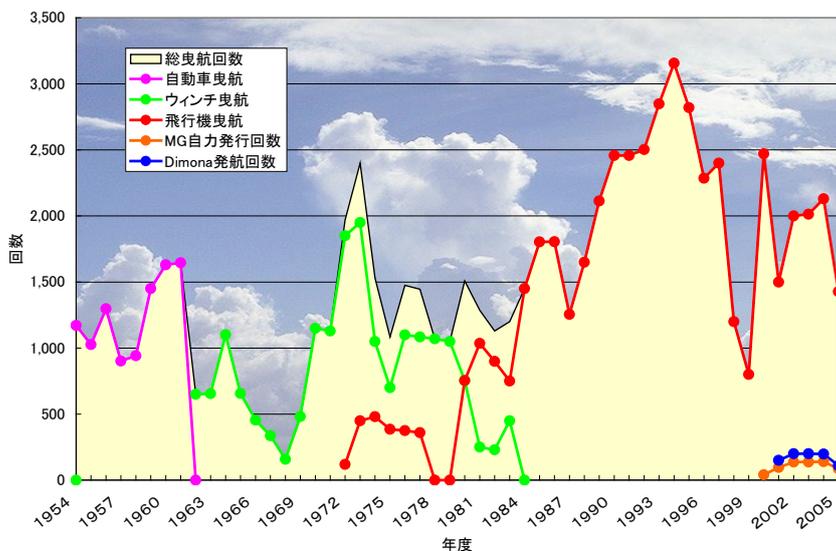
- 1) 航空局の「小型機の技量維持に関する通達」を受け、独自のAFR制度を導入・継続した他、チェックアウト規定およびビジター規定を整備し、広く一般への周知を目指してクラブホームページから参照可能とした。その結果、当該制度が浸透し、クラブ内外に技量維持訓練および安全情報の伝達などが定着した。また、当該通達に関する安全講習会の開催に向けて、社団法人日本航空機操縦士協会 社団法人日本滑空協会等の主管団体と講習会の共同開発を進めている。
- 2) 運航規定、フライトマニュアル、ピストマニュアルなどの規定類を整備し、「板倉滑空場オペレーションガイド」に集約、メーリングリストの共有フォルダーにアップロードすることにより、常時更新を行いつつ参照可能とし、会員の情報の共有化を図った。
- 3) 月に一度、第一土曜日を安全点検日として、訓練前に機材・設備等の再点検及び搬入搬出路や滑走路のゴミ拾い等を行い、訓練後には会員相互のコミュニケーションを良好にするためのミーティングを行うようにした。
- 4) 板倉滑空場への来場者全員に、サロン入り口に設置した「板倉滑空場活動記録」に来場目的の記入を義務付け、同時に記載された当日の運航担当、気象情報、使用滑走路、会員の使用機材・飛行内容、イベント等の情報を認識し、さらに自己管理項目のI'M SAFE、練習許可書期限、身体検査証明書期限、AFR実施日、自家用操縦士技量維持講習会の参加期日、過去90日間の飛行回数、自家用機の耐空証明期限等の記入欄を設けて、各個人が自己管理を行えるようにした。
- 5) 訓練時に着用するための会員全員の名札を作成し、裏面に練習許可書期限、身体検査証明書期限、AFR実施日などの情報を書き込むことにより、会員の自己管理部分の情報管理ツールとして提供した。
- 6) 飛行前の全員参加によるブリーフィングで、安全に必要な項目をピスト白板のチェックリストに記入し、常時確認を実施した。
- 7) 前月末までに、運航日ごとの運航管理者1名、インストラクター1名、タグパイロット1名を決定し、公表すると共に常時配置を徹底した。
- 8) インシデント対策その他運航の安全を確保するための施策(ヒヤリハットレポートなど)を逐次実施した。
- 9) 安全対策、騒音軽減を図るため、滑走路、タクシーウェイ、駐機場等の延長・区分・整備等を行い、より安全に効率的に運航が行えるように運航方式を改善し、オペレーションガイドに反映させた。
- 10) 滑走路への搬路に、安全確認と地元車両優先を図るための道路標識(STOP)を設置した。

## 6. クラブ運営体制の改善

クラブ内部の運営体制を改善するために、下記の項目を実施した。

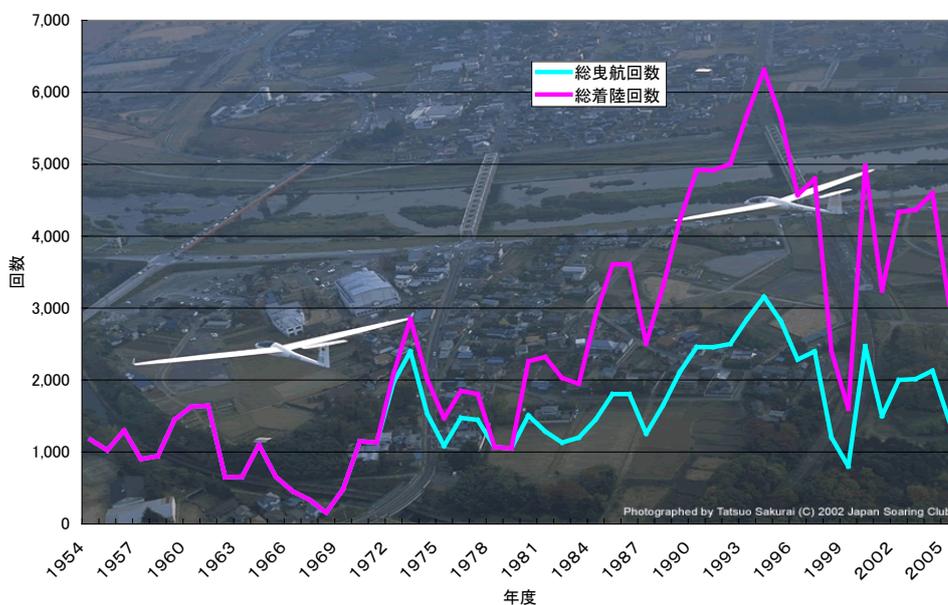
- 1) インストラクター、曳航パイロットに対して研修会を実施し、安全情報を確認する機会を持つと同時にクラブとしての認定を行った。
- 2) 会員のボランティア活動に対するリスクを多少なりとも軽減し、活動を促進するために、クラブとして傷害・賠償責任保険を付保した。これはクラブ活動中の不測の事故や損害に備えて、会員に対してお見舞金や損害賠償に対する補償をクラブより補填する制度であり、制度を周知させるためにマニュアルを作成の上、会員全員に配布している。
- 3) 滑空場内で使用する車両(ピストカー、バギー、リトリブカー、草刈機等)について自賠責保険を付保している。
- 4) 公式文書の改廃リストをアップデートし、東京事務所にて現在有効な公式文書番号を管理できるように改善した。また、メーリングリストの共有フォルダーに公式文書リストをアップロードすることにより、常時会員より参照可能としている。平成18年度には、公式文書の閲覧を会員専用ホームページ上に移行し、また会員全員に公式文書の加除式ファイルの配布を予定している。
- 5) 公式ホームページの迅速な更新を行うため、更新作業を外部委託した。
- 6) 55周年記念事業である滑空場施設改善のため、資金の集め具合に対応し計画を分割し、第1次計画に着手した。計画の内トイレ・浴室・シャワールーム、宿舍、事務所、宿舍の部分の建設に着手し、今年度完成。第2次工事は55周年に当たる平成18年度内に実施予定である。

(社)日本グライダークラブ 曳航回数推移(1954-2005年)



(社)日本グライダークラブ  
統計資料館

(社)日本グライダークラブ 総曳航回数・総離着陸回数対比(1954-2005年)




社団法人日本グライダークラブ

■板倉滑空場

住所：〒374-0101 群馬県邑楽郡板倉町除川 1286  
TEL/FAX：0276-77-0830

■東京事務所

住所：〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-1(航空会館 9F)  
TEL：03-3591-7728 FAX：03-3591-7726  
E-mail: shinbashi-office@glider.jp  
URL: www.glider.jp

板倉滑空場 累積着陸回数(1954-2005年)

